

# なかむらとくべつしえんがっこうだより

よこはましりつなかむらとくべつしえんがっこう こうりゅう じんけん ぶ ねん がつ  
横浜市立中村特別支援学校 交流・人権部 2019年10月

## 「学びあい 支えあい」

なかむらしょうがっこう ふくこうちょう たかの  
中村小学校 副校長 高野 てるみ

ことし がつ なかむらしょうがっこう ふにん なかむらとくべつしえんがっこう へいせつ がっこう  
今年の4月に中村小学校に赴任しました。中村特別支援学校と併設の学校ということは  
いどうまえに聞いていましたが、特別支援学校がどのような学校なのか、ほとんど知りませんでした。  
こうとうぶ しょうがっこう こうしゃ いちぶ しょう せいと しょうがっこうしよくいんしつまえ ろうか い  
高等部は小学校の校舎の一部を使用していて、生徒は小学校職員室前の廊下を行き  
来している。子ども達は互いに交流している。運動会(中村オリンピック)は、合同で行  
う。じどうせいとおおく くるまいす つか せいと  
児童生徒の多くは車椅子を使っている。その通りなのですが、着任前には実際に想像  
し難く、どんなふうに…と、疑問のまま新年度が始まりました。

なかむらしょうがっこう こどもたち なかむらとくべつしえんがっこう ともだち にゆうがく こころ こうりゅう  
中村小学校の子ども達には、中村特別支援学校の友達があります。入学した頃からの交流  
を通して、ごく自然に学び合い成長しています。

ある時は、4年生の理科の「空気と水」の  
がくしゅう いっしょ みずでっぽう つか みず あ  
学習で、一緒に水鉄砲を使って水をかけ合  
たり、みず くうきの手ごたえを試してみたりして  
たの せんせいがた かいじよ みず はい  
楽しそうでした。先生方の介助もあり、水の入  
っていないビニールプールの中に座って水の  
かんじよく あじ こ ねんせい  
感触を味わっている子もいました。2年生の  
せいかつか せんせい てだす  
生活科では、先生の手助けとともに、サツマイ  
モの苗を一緒に植えていました。どちらの学校  
の児童もごく自然に関わり合っていました。



うんどうかい なかむら れんしゅう ほじ かんしん  
運動会(中村オリンピック)も、練習が始まってみると感心することばかりでした。  
りょうこう せんせい じぜん こま うちあわせ かさ かくがくねん れんしゅうじかん ないよう かくにん いっしょ  
両校の先生が事前に細かい打ち合わせを重ね、各学年の練習時間や内容を確認し、一緒  
にえんぎれんしゅう をしていました。車椅子を支えるのは先生だったり、なかむらしょうがっこう こどもたち  
だったりです。ソーラン節やおおだまおくり えんぎ にほんじゅうさが うんどうかい おこな  
ソーラン節や大玉送り、演技と、日本中探してもこのような運動会を行  
っているしょうがっこう しえんがっこう ほか にはないだろうと、おどろ  
驚きました。子ども達も保護者も  
しよくいん ごとく おこな うんどうかい にちじょう  
職員も、このように合同で行う運動会、そして日常があたりまえのこととして生活して

います。中村小学校の子ども達の優しさの根源は共に生活する日常の積み重ねからなるものと感じました。

中村特別支援学校の子ども達と校内で出会った時の私自身が大きく変わりました。どこを見ればよいのだろうと身構えていた私でしたが、顔をのぞきこみ、目を見て「おはよう」「こんにちは」と、声をかけられるようになりました。中村学校（中村小学校と中村特別支援学校）は、一人一人の違いを認め尊重する、共に学び、共に成長し、共に生きている生活環境にあると実感できました。

## 「れいくんと一緒に」

ながやしやうがっこう  
永谷小学校  
むらせ ゆま  
村瀬 由真

「今日はれいくんがくるよ。」と私が5年3組の朝の会で伝えると、「今日は一緒に何を  
するのかな。」と、みんなが期待に目を輝かせます。れいくんは、基本的にどんな学習  
にも私たちと一緒に活動しています。国語や算数はもちろん、音楽や図工、体育など  
身体的に難しく思われることでも、みんなと同じく取り組みます。私は、担任として  
れいくんと関わるのは今年度が初めてですが、すでに5年間交流を経てきた子どもた  
ちは、れいくんがどの教科でも一緒に勉強することを知っています。だから、「れいく  
んが何をできるか」ではなく、「一緒に何をやるのか」とワクワクするのです。私はま  
ず、学級の子どもたちがれいくんと一緒に勉強することを自然に受け入れ、当たり前  
に思っていることに驚きました。そして、これまでの交流でこの“当たり前”になる  
ような、よい関係を築いてきたのだと感じました。

年度初めに、中村特別支援学校の先生とれいくんのお母さんと、これからどの活動を  
一緒にしていくか打ち合わせを行いました。私は、きっと“れいくんにも活動できる  
内容”を、考えていかなければならないと思っていました。しかしお二方とも、「みん  
なと一緒に活動になるべく同じように取り組みたいです。」と言いました。れいくんの  
お母さんは普段から永谷の個別支援級に支援をいただいております、永谷小学校の日常や  
子どもたちの動き方をよく知っています。だから交流の際にも臨機応変に対応してく  
ださい、楽しんで学習できる手助けをさせていただきます。子どもたち同士で触れ合う  
場では、れいくんの気持ちを伝え、また子どもたちがコミュニケーションをする橋渡し  
をしていただきました。れいくんの周りにはいつも笑顔にあふれ、中休みにも話をした

り手遊びをしたりして過ごしていました。これまでそのように交流してきたことが“当たり前”を築いたのだと思います。私も、そうした子どもたちの姿から、“当たり前”を学ぶことができました。

れいくんと“当たり前”に過ごした経験は、これからの社会で必ず生きてくるはずで、誰でも苦手なことはあり、困った時には誰かに助けを求めます。れいくんと過ごしてきた経験を忘れずに、困っている人がいたら、自然と手を差し伸べてあげられる大人になってほしいと思います。

## 「親子で通う交流を通して」

しょうがくぶ ねん  
小学部5年 れい  
はは  
母

ふくがくせきこう ながやしやうがっこう  
副学籍校 永谷小学校

なかむらとくべつしえんがっこう にゆうがく おなじ しょうがっこう ねんせい いま ながやしやうがっこう  
中村特別支援学校に入学した同じ年、小学校1年生から今まで、永谷小学校で副学籍交流をしています。地域の子と交流を持ちたかったので、副学籍交流を希望しました。

りやういく かよ しょうがっこう し こ わず くるま  
療育センターに通っていたので、小学校に知っている子は僅か。車いすのれいを見て、子どもたちはどんな反応をするのだろうと不安になっていました。

しょにち じこしょうかい あと しつもん くるま  
初日、クラスで自己紹介。その後質問タイムがありました。「どうして車いすなの？」と聞かれ、「目が見えにくい子がめがねをかけているように、れいは歩くことができないから車いすをつかって移動するんだよ」と答えました。質問してくれた子はふーん、と納得してくれました。「どうしてお話ができないの？」「なんで自分で体を動かさないの？」と、なかなか答えに迷う質問がありました。が、「脳から声を出してとか体を動かしてっていう指令が届かないみたい」と答えました。質問のなかで興味をもってくれることや、一生懸命答えて伝わったことが不安だった気持ちを取り除いてくれました。

じゅぎょう ねん じかんめ じかんめ  
授業は1、2年のときは、2時間目から4時間目まで同じ学年、3クラス1時間ずつ学習しました。



副学籍交流では、れいのために特別授業をしてもらうのではなく、普段通りの授業を受けています。授業中、先生に問題の答えを聞かれ、れいが答えるとすぐに眠くなってしまふところは、大物だと思いました。

3. 4年生になると、中村の担任の先生から、5時間目も授業に参加してみてもいいかと提案をいただきました。そんな長い時間体力が持つか？と思いましたが、チャレンジしてみてもよかったです。同じ学年の子どもたちとの交流に加え、個別級の子ともたちとも交流する時間ができたからです。

個別級の学習で印象的なのはスイートポテト作り。作っている途中から匂いがして、甘いものが大好きなれいは「食べたいなあ〜」とくちをパクパク。れいらしい一面をみることができました。



給食ではクラスの子もたちが「れいくん、一緒に食べよう」と声をかけてくれます。この班で食べようね、と言われることがうれしそうです。

食事はミキサーにかけたものを持っていきます。ミキサー食を初めて見る子どもたちに、私のお弁当を見せて「これと同じものをトロトロにしないと食べられないから、このかたちなんだよ」と言うと、「へ〜すごい」と反応。「おいしそうだね」と言われるとニコニコしています。

休み時間、子どもたちはスキンシップをとってくれたり、虫を見せてくれたりしています。れいと私は、ゲームをやっていたグループに「入れてー」と声をかけ一緒に仲間に入っ遊びます。そのときの笑顔は、永谷の子どもたちにしか引き出せないものだと思います。

副学籍交流がきっかけで、いろいろな人にれいのことを覚えてもらい、道で会っても「あの子知ってる〜」というそっけない対応ではなく、「れいくん、こんにちは」と声をかけられるようになったことが一番うれしいです。

永谷小はエレベーターがないので、他階へ移動の際は毎回車いすを持ち上げなくてはなりません。それでも何人もの先生方にお手伝いしてもらい、「れいくん、次の授業もがんばってね」と声をかけてくださいます。

たくさんの方のご協力とご理解があつて、れいの副学籍交流をすることができていることに心から感謝しています。

これからも永谷小や地域の中で、仲良く交流できたらいいなと思います。